

現役教師ですが
“教育”について
こんなことを考えてます。

—これからの教育を担う人たちへ—

受験生にとって聞けそうで、なかなか聞く機会がないのが現役教師の教育観。
毎月1つのテーマを取り上げ、先生方の考えを聞いてみました！

今月のテーマ：「教員の社会参加」

今月のテーマは「教員の社会参加」。一口に「社会」と言っても、そこには様々な集団があり、色々な人がいます。そしてその一員であることから、良くも悪くも多くのことを経験して学びます。菊池先生はどんな社会に参加してきたのでしょうか。

著 菊池健

岩手県出身。平成25年小学校教諭になる。現在、千葉県八千代市立八千代台東小学校教諭。

巨人の家庭で育った

身長192cm、体重90kg。恵まれた体型で私は育ちました。父親が194cm、祖父が184cmとまるで巨人の家庭で育った私は、中学1年生の時にある選択で悩まされました。それは部活です。

当初は父親と祖父が取り組んでいたバレーボール部に入部する予定でしたが、私の進学した中学校にはバレーボール部がありませんでした。

友達と散々迷った挙句、ドッジボールが好きだったという理由で、ハンドボール部という未知のスポーツに入部を決めました。

そこから、現在まで続く私とハンドボールとの長い付き合いが始まりました。

「社会人」の意味

……現在29歳。教員となった今でも、ハンドボールの社会人チームに所属し、汗を流しています。

ところで、「社会人チーム」の「社会人」という言葉。誰でも一度は耳にしたことがあるのではないのでしょうか。そして、社会人という言葉について具体的に

説明してもらったこと……学生の皆さん、ありますか？

この「社会人」という言葉は、一体何を指しているのでしょうか。

世間一般で使われる社会人という言葉は、働く人を指すことがほとんどです。きっと、働いて社会の一端を担う人という意味合いで使われているのでしょう……果たして、それだけが社会人を意味するのでしょうか。

そもそも「社会」とは何をもつての「社会」なのでしょうか。私自身について考えてみました。

私は教員という社会に所属しており、その中の一員です。また、今所属しているハンドボールのチームという社会の一員でもあります。しかし、それだけではありません。今担任をもっている5年3組という集団の社会の一員でもあり、私自身の家庭や家族の社会の一員でもあります。

つまり、「社会」とは人が集まった集団を意味していて、その集団の中での一端を担っている人のことを「社会人」と言えるのではないのでしょうか。

もし、そう言えるのであるならば、子供たちもそれぞれ別の社会で生きている社会人と言えます。

私のクラスで例を挙げるならば、5年3組という社会で様々な当番の仕事をする事や、みんなが楽しむための係活動をする事、楽しく友達と遊ぶこと……。

5年3組という社会において、それぞれが一端を担っている社会人であり、それぞれの習い事や家族などの社会においても、一端を担っている社会人であると言えます。

子供たちは、小さい頃から多様な社会にふれあい、その社会の一員であることから、良くも悪くも多くのことを経験して学びます。それは、技能や知識だけでなく良好な人間関係を築くためのコミュニケーション、マナーもそうです。

そして、経験して学んできたことは成長につながり、大人になってからも「社会」の一端を担うために必要な力となります。

「失敗」を子供たちに還元する

私もこれまでの人生で、様々な「社会」に参加してきました。その経験を子供たちに還元できる機会もたくさん頂いてきました。

例えば、ハンドボールで努力が報われた話を子供にします。中学1年生のとき、ハンドボール未経験者である私は全く上手ではありませんでした。

負けず嫌いな私はそんな自分が許せず、毎日休み時間に1人でゴールにシュートを打ち込みました。土日は練習が始まる前に来て、シュート練習に励みました。

それを変な目で見ると仲間はいましたが、初めての1年生大会では、見事レギュラーの座を取り、県大会で3位に入賞し、優秀選手賞という個人賞も頂くことができました。

この話をすると、子供たちは努力の大切さを改めて感じているように思えます。

しかし、成功した話だけを子供にするわけではあ

りません。子供が話を聞いたがるのは、先生の失敗談。例えば、下級生がやるべきことをさぼって、先輩から怒られた話。監督がいないときにふざけて、一時期退部になった話。自分勝手なプレーをし過ぎて、仲間から嫌われた話……。

数えきれない失敗をしてきた私の話を、子供たちは最初、嬉々として聞き、最後はどこか真剣な表情で聞いてくれます。

「先生でもこんな失敗するんだ」「そうならないようにしないと」と子供が自身の生き方に置き換えて考えてくれます。

普段の教科の授業ももちろん大切な内容です。でも、授業では伝えられない別の大切な何かを伝え、子供が「自分を変える」きっかけになればと思っています。

いろんな「社会」に参加しよう

これを読んでいる学生のみなさん、あなたはどんな集団に所属していますか？ そのそれぞれの「社会」でどう人と関わり合っていますか？ どんな経験をしていますか？

今、それぞれの社会で学んだことは、あなたの力になります。例えば教員採用試験に合格し、クラスという子供たちの集団の「社会」に参加した時。その時、担任のあなたから、子供たちに良い刺激を与えることができるように、今、自分自身の生き方を見直してみよう。

色々な経験をしてきた先生は、子供たちからすると、とても魅力的です。

また、なにも大学を卒業してすぐ教員の「社会」に飛び込むことが全てではありません。世界に限りなくある多種多様な「社会」に参加するのもいいのではないのでしょうか。

そこでたくさんの経験をし、さらに魅力的になったあなたと同僚として会えたら、とても嬉しいです。

今月のまとめ

- 子供たちは、小さい頃から多様な社会にふれあい、その社会の一員であることから、良くも悪くも多くのことを経験して学ぶ。
- 子供たちに良い刺激を与えることができるように、自分自身の生き方を見直してみる。